

第34回  
読書感想文  
コンクール



イラスト/戸嶋 有沙

作品集 2020

利尻富士町立鬼脇公民館

## 第三十四回 読書感想文コンクール作品集の発刊にあたって

利尻富士町教育委員会

教育長 島谷 一昭

この「読書感想文コンクール作品集」は、今年で三十四回目の発刊となりました。本年度のコンクールには、小学生八十五編、中学生六十編、合計百四十五編の応募をいただき、その中から優秀作などに輝いた作品三十編を一冊にまとめました。

さて、読書感想文は、なぜ書くのでしょうか。公益社団法人全国学校図書館協議会によると、「書くことによって考えを深められるからです。読書感想文を書くことを通して思考の世界へ導かれ、著者が言いたかったことに思いをめぐらせたり、わからなかったことを解決したりできるのです。ですから読書感想文は「考える読書」ともいわれます。また、どんなに強く心を動かされても、時がたてばその記憶は薄れてしまいます。読書感想文は自分自身の記録です。読み返すことによって、いつでも「感動した自分」に出会うことができるのです。」とのことなのです。

昨今のスマホやネットの普及による情報の入手は、とても便利なもので、使い方を誤らなければ現代社会にとって必須のものであります。しかし、実際に本を手にとって読み、その内容に思いをはせながら自分自身を照らし合わせ、感想文を書いてみるという経験は大事なことで、まさしく自分自身の記録に出会うことにつなが

ります。

今後もコンクールを通じて、一冊の本との出会いが、子どもたちの心や希望を育み、さまざまなことを教えてくれる友たちとなるよう、事業内容の充実を図るとともに、この作品集が、より多くのみなさまに読んでいただけることを願っています。

おわりに、時節柄公務ご多忙のなか審査に当たられた先生方をはじめ関係各位に心から感謝申し上げますとともに、今後とも多くの子どもたちの個性、可能性を引き出すため、読書活動の推進にご尽力いただきますようお願い申し上げます、発刊のことばといたします。



# 【作品集 目次】

## 小学校一学年の部

☆ 優秀作

しんぼんごころもつきのあそび

鷺沼小学校 一年 なかやま てるひろ …… 6

★ 佳作

「しんぼんごころ」をよんで

利尻小学校 一年 きまひろ あい …… 6

たけのこのこをよんで

鷺沼小学校 一年 わたなべ すみれ …… 7



## 小学校二学年の部

☆ 優秀作

しんぼんごころもつきのあそび

鷺沼小学校 一年 国分 七南 …… 7

★ 佳作

「あそびのあそび」をよんで

鷺沼小学校 一年 須田 ひまひ …… 8

とびえないホタル

利尻小学校 一年 山谷 詩葉 …… 9



小学校三学年の部

☆ 優秀作



「電池が切れるまで」を読んで

鷺泊小学校 三年 山中陽路 …… 9

★ 佳作

ひまわり日記

利尻小学校 三年 寺島信源 …… 10

「花はだねのため」を読んで

利尻小学校 三年 菅原凜史 …… 11

★ 奨励賞

LINE FESSUJI

鷺泊小学校 三年 近江美和翔 …… 11

小学校四学年の部

☆ 優秀作

「10歳の君に贈る心を強くする26の言葉」を読んで

鷺泊小学校 四年 佐藤周宥 …… 12

★ 佳作

家族の一員

鷺泊小学校 四年 中山智晴 …… 13

★ 奨励賞

5分後に意外な結末

利尻小学校 四年 小中楓太 …… 14

ブレインジャーナル

利尻小学校 四年 加賀谷美緒 …… 15

小学校五学年の部

☆ 優秀作

「なぜ僕らは働くのか」を読んで

鷺泊小学校 五年 黒川 結凪  
…… 16

★ 佳作

「この世界の片すみ」を読んで

鷺泊小学校 五年 工藤 佳音  
…… 17

「火垂るの墓」を読んで

利尻小学校 五年 井田 心優  
…… 18

★ 奨励賞

「ひとひつちまたへい」を読んで

鷺泊小学校 五年 天内 颯斗  
…… 18

小学校六学年の部

☆ 優秀作

「犬たちをおくる日」を読んで

鷺泊小学校 六年 種谷 海璃  
…… 20

★ 佳作

チーム

鷺泊小学校 六年 入井 綾花  
…… 21

★ 奨励賞

大人との対立

鷺泊小学校 六年 酒井 綾乃  
…… 22

「青いスタートライン」を読んで

利尻小学校 六年 河越 姫花  
…… 23



中学校の部

☆ 優秀作

「青い鳥」を読んで

鬼脇中学校 三年 牧野 まきの  
海結 みゆ  
：  
：  
24

人とのつながり

鷺沼中学校 三年 高橋 たかはし  
暖 のん  
：  
：  
25

★ 佳作

ミフイの授業

鬼脇中学校 三年 東海林 しやうじ  
凱 かい  
：  
：  
26

カラフル

鬼脇中学校 一年 富岡 とみおか  
小華 こはる  
：  
：  
27

宇宙でいちばんあかるい屋根

鷺沼中学校 三年 吉田 よしだ  
汐音 しおね  
：  
：  
28

★ 奨励賞

カラフル

鬼脇中学校 一年 牧野 まきの  
泰貴 たいが  
：  
：  
29

一リットルの涙

鷺沼中学校 三年 佐藤 さとう  
桜 さくら  
：  
：  
30

星の王子様

鷺沼中学校 一年 小神 こがみ  
天寧 あまね  
：  
：  
31





★ 佳作 かたよく

すきぎたごをしない

おしごまり小学校 一年 わたなべ すみれ



わたしは、「カレーライスがにげだした」をよみました。  
いちばんこころにのこったところは、きつねがないている  
うちこうきぎたごのところにもどったところですよ。なぜなら  
いじわるなきつねに、たべられなくなかったからです。  
もし、わたしがうきぎだったら、やさいもおにぐも、きら  
いといわないでぜんぶたべます。

このほんをよんで、わたしは、きらいなたべものも、たべ  
られるようにがんばりたいです。そしてなんでも、おいしい  
とよいだと思います。



\* いじわるなうきぎ \*

嫌いな食べ物も食べらなむうに挑戦して、好き嫌いをしない  
た人も嬉しいと思います。

小学校二年生の部

★ 優秀作 ゆうしゅうさく

しっぱいにかんぱい

鷲泊小学校 二年

国分 くにぶん ななみ 七南



わたしがこの本をえらんだのは、タイトルのいみが気になった  
からです。

小学六年生のかなは、一年生の時からずっとリレーのせん手で  
六年生ではアンカーだったけど、自分のしっぱいでまけてしまっ  
て、おちこんでいました。それを見たおじいちゃんは、親せきだ  
ちをあつめて、かなのすきなハランすしでパーティーをします。  
みんながじゅんばんに自分のしっぱいを話して、そのたびに「し  
っぱいにかんぱい」「とかんぱいしっ」とうたってたさうと、「ふ思  
き  
だったけど、みんなにしっぱいを語らせて、かなをほげましてい  
るんだとわたしは思いました。

「ばんすきな場面は、「しっぱいして大きくなるし時がたつと、  
しっぱいがいい思い出たなる。」とおじいちゃんが言う場面です。  
それを聞いたかなも、しっぱいしていらんだと元気がなりました。  
わたしも、しっぱいしたくなく、「しっぱいした  
らどうしよう」と心ぱいかなをばい、「しっぱいするの  
も大切なことだ」と思いました。もく、友だちがしっ  
ぱいしても、わらわらないで元氣つけてあげたいと思  
います。





\*1じじひちひち\*

自分の思いや考えを素直に表現できている。失敗するところが大切だと思える気持ちが素晴らしいと思います。友達が失敗してしまったとき、自分の失敗を話しながら、優しく元気づけてあげたいです。

★ 佳作

「空の好きなしゅんこうのたしろしゅう平は、つい、空その



鷺泊小学校 二年 須田 ひまの

空そのの好きなしゅんこうのたしろしゅう平は、つい、空そののせかいで、おかしなことをしてしまいます。くうそのせかいと、げんじのせかいが、いちゃいちゃになってしまつ中、けんかもあるけれど、しつこくすてくれるのがまたかえりで、やっぱりおめでとうだあとと思うお話です。私が一ばん心こつた場めんは、思わずしゅう平とかずえの妹あやがシュークリームをぬすんでしまつところです。二人はシュークリームが大大大好きです。その時二人はすべてはしつこくげます。そして、ちまたかずえのいえの前まできました。かずえのいえの前でシュークリームをたぐると、母がきてとてもかなしんでいました。しゅう平の母は二人でシュークリームをとったことをあやから聞いてしつこくかなしかつたと思います。

わたしは、この本を読んで、空そのは楽しいけれどほんま

にして、しっかりだめなことで、よにこのへぐつをしっかりと考えてがんばっていききたいなあと思いました。みんなとじっしょいそんなことを考えていきたいです。



\*1じじひちひち\*

空想の世界と現実の世界が混ざってしまつ主人公に対しての気持ちがつからなくて書けています。タメなジャーナリズムの区別をわかんなくして周のお友達にも広めて、楽しく学校生活を送れるようにしたいな。

★ 佳作 かさく

## とべないホタル2



利尻小学校 二年 山谷 やまや 詩葉 ことば

生まれたばかりのホタルの中に一匹だけとべないホタルがいたおはなし。

そのホタルはとべないかわりに水のそこであるけるし土もほれ

でも、さいしょは水のそこをあるくのがこわかったけど、ゆづきをふりしほってあるけるようになりました。

わたしはとべないホタルがともがなほってすいじいと思ひました。

わたしも、とべないホタルのようにゆづきをふりしほってプールがこわいけど、およげるようになってたすいす。

\*いじひちゅう\*



わたしはとべないホタルの仲間です。わたしはとべないホタルは大事なとびです。他のみんなは飛ぶとびがとびます。自分では飛ぶから他のとびを頑張るとびいじい気持ちがかいじいこと思ひます。

## 小学校三年生の部

☆ 優秀作

### 「電池が切れるまで」を読んで



鴛泊小学校 三年 山中 やまなか 陽路 ひいろ

この本は、子どもびょういんに入いんしている人たちが書いた物を集めた本です。この本に出てくる四才から高校二年生までの人は、みんなすぐにはなならないびょう気で入いんしています。長い間学校に通えないので、びょういんの中にあるいん内学級という所で勉強しています。

そのいん内学級で、ゆきなちゃんが書いた言葉が心にのこっています。電池は切れても取りかえられるけど、命はとりかえられない。だから、命がつかれたと言ひまでせいはいいびい生きまじい。というこが書いてありました。

ぼくは、入いんしたことがないし、大きいびょう気になったことがないので、ゆきなちゃんのつらさはあまりわかりません。だけれど、命は大切にしまきやいけないう思ひました。

それに、学校に通えることや、友達と遊べることは、とっても幸せなことなんだなと思ひました。

ゆきなちゃんは、十一才で「いん」なつてしまひました。

ぼくは、今八才です。あと三年で命がなくなると想ひます。いじい気持ちになります。でも、いつびょう気になるかなんてわからないので、ぼくも命がつかれたというまじい、今とまじいことをがなほっていききたいと思ひました。

この本を読んで、子どもびょういんでがんばっている人達がいることを知れてよかったです。



【講評】

自分で経験したことがないことを想像して、しっかりとした感想が書けています。当たり前だと思っていることが当たり前じゃない人もいます。当たり前を知れて、自分は頑張っているという気持ちがあります。よく伝わっていました。その気持ちをそのままに学校生活を楽しく過ごせるようにしてほしいな。

★ 佳作

じゅめのそこのてんこ



利尻小学校 三年 寺島 信源

ぼくがこの本をえらんだ理由は、海のそこのびんな天使がいるのだなと思う、おもいよひだったのびえらびました。このお話は、海のそこの電線をつなぐロボット「27」が、ふるくなって人間ですらわら、そこにいつかくがたすけにきてくれるお話です。

ぼくは、いつか「27」がおちているしゅん間に、せ中に乗せてたすけてあげたころがすきでした。なぜなら、だれかをたすけることはかっこいいことだと思うからです。

そして「27」もいつかのおれてしまったつのをなおして、たすけてあげています。こうやって二人がおたがいにたすけあってなかよくなりほかのなか間のロボットたちを全部たすけに行ったのがすこいと思いました。

この「27」やほかのロボットのなかまたちをいらないといって海にすててしまったのは、人間たちです。人間にはものを簡単にすてる人もいます。はじめはじめて知ったし、かなしくなりました。そして、ぼくはこういう物を簡単にすてる人になりたくないと思いました。なぜなら、このロボットたちのように、いやなことをされた人がかなしい気持ちになってしまっし、そのまわりの人もいやな気持ちになってしまっからです。

なのでぼくは、いつか「27」のように人のやくに立ってみんなを楽しくえがおにできる人になりたいです。そのため、これからみんなとたくさん遊んだり、やさしくしたりしたいです。

【講評】

『物を大切にする気持ち』が、素直に受け止められて自分の言葉で表現できているところが良いと思います。いやなことは、わたしたちだけではなく周りの人もいやな思いをするところについては大切なことです。



★ 佳作

「花はだれのために」を読んで



利尻小学校 三年 菅原 凜央  
すがわら りお

「このお話は、「読書の時間に読む本」という本の中のお話の一つです。

子供がいないおじいさんとおばあさんが、野菜やお花を子供のように育てていて、ある日孤児のミギちゃんという男の子がもらわれてきます。その男の子が、お花や野菜の芽をちぎったり、イタズラをしたりして、おじいさんとおばあさんを困らせるというお話でした。

ミギちゃんは、いつもお花を見るとちぎり、野菜の芽が出るのもいでしまい、いつもポケットがお花や野菜の芽でパンパンでした。何故そんなことをするのか、ぼくは不思議でした。ミギちゃんは自分の家のお花だけではなく、近所のお花までちぎり、お花は自分のために咲いていると思っていて、おじいさんがいっぱい叱っても全然治らなく、ぼくは、おじいさんが可哀想だなと思いました。ミギは、我儘は言わないけれど、毎日、近所に謝りに行かされるおじいさんが可哀想だと思いました。

もう種まきはしないと言ったおばあさんにおじいさんは、誰のために花が咲いているのかミギちゃんに分かるまで、他のお家にとりに行かないように、まきつづけようと言っていました。

ぼくも最初は、種をまかない方がいいと思っただけれど、他のお家に迷惑がかかるから、種はまいたほうがいいと思いました。

ぼくは、なぜミギちゃんが花をちぎったり野菜の芽をちぎった

りするのか考えてみました。きっと孤児なので

さみしかったなと思いましたが、でもお花は、

見る人皆のために咲いていると思っ、折角咲

いていたのに、ちぎってしまうのはお花もお花

を育てた人も可哀想だから、ミギちゃんも早く

大きくなって、誰のためにお花が咲いているの

か、わかってくれるといいなと思います。ミギちゃんのために種

をまきつづけたおじいさん・あばあさんの事を早くミギちゃんに

知ってもらいたいです。

ぼくは、花について考えたことはなかったけれど、今後植物は大切にしようと思いました。これからは、家で育てているトマトや、学級で育てているホウセンカやヒマワリに、きちんと水やりやお世話をしていきたいです。

【講評】

主人公の気持ちを「どうしてだろうっ?」と疑問を持ちながら考えられているのが良いと思います。花も生きていることについて考えをきまっかけて、なった今の気持ちを大切にしてい、しっかりとお世話が出来るようにな

★ 奨励賞

「うさぎのうさぎ」



鷺泊小学校 三年 近江 美和翔  
おうみ みなと

イヤな気持ちはどうすればいいのだらうっ?

わたしはお母さんにすすめられ「うさぎはいいの」という本を読みまし

一回よんでも、この女の子はなにをいっているのかあまりわかりませんでした。なのでなんかおもいました。そして「イヤな気もちはどうすればいいのだろう?」と思ったのです。

イヤな事をされたら、あった時は女の子とおなじ様にちがひごとをかながえたりしてわすれようと思いました。

女の子は「イヤな気分って体の外がわんわんかかな?」と聞いていた時にわたしは「だからイヤなことがあった時は心や体が重く感じるのか!」と思います。ぎゅくにうれしい時やたのしい時は心や体がふわふわするのは良い気分がくっついてくるかもしれないと思います。

大人もイヤな人がいたり、イヤなことがあるんだと知りませんでした。でもわたしみたいにならないたりはしていません。わたしとおなじでわすれようとしているのか、イヤな気もちをなくす方法を知っているのかもしれないと思いました。

女の子はイヤな人やイヤなことに「ちゃんとかがえたり、自分で、できるよになろう」といっています。

わたしはちゃんとかがえることが出来るかはわからないけど、イヤなことがあった時には好きな人と好きなことをして良い気分をたたくてくっつけようと思います。



### 【講評】

物語について、自分の経験と照らし合わせてながら、自分の思いや考えを表現しています。じっくりとイヤな気持ちをなくせなかったら周りの大人に聞いてみるのもいいですね。

## 小学校四年生の部

### ☆ 優秀作

#### 「10歳の君に贈る心を強くする26の言葉」を読んで

鷺泊小学校 四年 佐藤 周希



夏休みに入り、母が本を二冊買ってくれました。その本は、十歳になったら読むというシリーズの本でした。その中でも、今回読書感想文を書くために選んだ本は、哲学者の言葉をまとめた本です。この本を読めば、自分の心が強くなるかもしれないと思っただからです。

本の中で特に心に残った言葉が二つあります。

一つめは、マルティン・ブーバーの「人間は関係存在である」です。人は常に「自分」と「あなた」の関係で存在しているという考え方から生まれた言葉です。たとえば、もし「ごめんなさい」「ごまかす言えない時には、相手との関係を思い浮かべてみよう」とブーバーは言っています。人には相手を大切に思う気持ちは必ずあるはず。大切な人との関係を修復するための言葉が「ごめんなさい」だとしたら、すなおに言えるのではないのでしょうか。

二つめは、ソクラテスの「ただ生きるのではなく、善く生きる」です。人間の幸せには「徳」がとても大切だとソクラテスは考えました。「徳」とは「道徳」の「徳」で、どう行いのことです。いい行いをするには、何が善で何が悪なのかを学ばなければなりません。

つまり、正しい「徳」は、正しい知恵があつていなくてはなりません。

ので、知恵と徳が同じものという考え方です。たとえば、もし「だれも見えていなければ悪いことをしてもいい」と考えている人がいたら、とても悲しいことです。だれも見えていなくても自分は自分のことをしっかりと見ているのです。

ぼくへの選んだ二つの言葉は、どちらも友達との関係に当てはまります。実際に友達とけんかをしてしまい、なかなか「ごめんなさい」の一言が言えなくて悩んだことがあります。

「許してつれないかもしれない」「相手から先に謝るべきだ」「な、心の中にたくさんのお互いの関係を修復する言葉だと考えれば自然に言葉が見つかります。それは、ぼくにとって友達は大切な人であり、失いたくない存在だからです。

「ごめんなさい」がきちんと言えることはいい行いであり、善く生きることに繋がります。哲学者の言葉は、日常の生活にも役立つものです。考え次第で、友達との付き合い方も変わります。この本を読んだことで、少し心が強くなったと思います。友達との関係に悩んでいる人は、ぜひ読んでみてください。



### 【講評】

特に心に残った言葉を自分の友人関係に置き換えて上手にまとめあげることができました。「ごめんなさい」が上手に伝えられず、友達と仲直りができなかったという悩みもめめめめかもしませんが、そんな時に、「10歳の君に贈る心を強くなる26の言葉」で読んでほしいと思います。

### ★ 佳作

### 家族の一員

鷺泊小学校 四年 中山 智晴  
なかやま ともはる



ぼくが読んだ本は、「人に育てられたシロクマ・ピース」です。この本は、国内でもめずらしいシロクマの人工哺育を成功させた、とべ動物園の高市さんとピースの物語です。ピースは、生まれてから百十日間、高市さんの家で育てられました。

ぼくがこの本を読んで感動したことは、高市さんとその家族が、ピースを本当の家族のようにむかえ入れたことです。高市さんはピースの成長に合わせてエサを何度も考えたり、冬でもまどを全開にして、せん用の部屋を作ったりしました。そんな中、高市さんは一度だけカゼを引いてしまったことがありました。動物園は休んだけれど、ピースの世話は休みませんでした。ぼくにはできないと思います。高市さんがピースの世話を休まなかったのはきっとピースの命をあずかっているからです。命をあずかっているということは、せきにんかんがないとできません。ぼくには、まだむずかしいですが、だれかの命をあずかるということは、自分の命も大切にできる、ということだと思います。なので、ぼくは、まず自分の命を大切にできる人になりたいと思いました。

シロクマは、細きんに弱いため、世話をするのは高市さんだけにかぎられていました。お世話を休んでいたら、ピースは、おなかを空かせて死んでしまうかも知れません。もし、ぼくが高市さんだったら、べったりしてピースのことまで考えられなかったと

思います。

ピースは、成長して動物園にもどったあとも、高市さんの子どもたちは、よく動物園にあそびにきて、ピースに声をかけてくれますが、ピースはおぼえていません。それでも、「ピースは家族だから」と言っています。

ぼくは、ピースが忘れてしまったのは関係なくて、「家族だから」と思える心がすてきななと思いました。まっとう、ピースが元気で幸せにいらして欲しいのが、一番大事なことから、そう言ったのだと思います。ぼくもそんなきれいな心を持つて欲しいなりたいと思います。



### 【講評】

シロクマのピースと高市さんの関わり方を管理者の思惑と一緒に考えてみるのが面白かったです。「動物の命をまもる」というのは、家族の一員として、簡単なことではないですよね。もし、いつか家族の一員としての命をまもることがあれば、精一杯育みたいかなと思いますね。

## ★ 奨励賞

### 5分後に意外な結末

利尻小学校 四年 小中 楓太



ぼくがこの本を選んだ理由は、五分後に何が起きるか、どんなお話なのかきょう味をもったからです。

この本はいくつかの物語が入っていて、最後には意外な結末があるというおもしろい本です。ぼくは、その中の『開いた窓』という題のお話を読みました。

このお話の内容は、主人公のフラムトン・ナトルが神経を病んでしまい、その病気を治すために田舎へ行くところから始まります。

ぼくがすごいと思ったことは、主人公や家族をうそでごまかせる女の子がすごいと思いました。自分だったら本当の事を言います。

なぜならぼくは、うそがうただからです。それに、うそをついて人をだますのはだめだと思っからです。うそをつくと自分もいやな気持ちになるし相手もいやな気持ちになるからです。

次にぼくが意外だと思ったことは、女の子たちの家族が犬を飼っていたことです。ところがあんなにうへから入行ってどうしたら帰ってくるので、遊んでいるんだなと思っただけです。

ぼくがこの本を読んで思ったことは、人にうそをつかない方がいいということです。うそをつかれるといやな気持ちになるからです。

これからは、人にうそをつかないようにがんばって意識していきたい

させていただきます。そして楽しく友達と遊びたいです。



【講評】

読書を通じて「いじめを言わない」「いじめを改めて気付かされた感想文でした。」「女の子は、なせいじめを言ったのか」「うそをついたら、どんな気持ちになるのか」をへわへわ書いへんがよかったら、よりの感想文になったと思います。

★ 奨励賞

ベッシーくん



利尻小学校 四年 加賀谷 美緒

わたしが、「この本をえらんだ理由は、題名を見てベッシーという名前が気に入ったからです。

この本の内いじめは、田一郎くんが転校をすることで、ベッシーくん友達になるお話です。

ベッシーくんは最初、一郎くんがいじめをしますが、ベッシーくんがけがをしたとき、一郎くんが心配してあげたところから仲よくなりました。

わたしが、心に残った場面は二つあります。

一つ目は、五回も転校をしたことです。なぜかという、五回も転校をする人がいると聞いた事がないからです。わたしは転校を一度もしたことがないので、一郎くんの転校を聞いたときびっくりしたからです。

二つ目は、ベッシーくんがけがを二回もしたことです。一回目のけがの時は、ベッシーくんのことを心配していなかった一郎くんだったけれど、二回目のけがの時、ベッシーくんのことを心配をしたことで、一人が仲よくなったのでうれしかったからです。わたしはこの本を読んで学んだ事は、だれにたいしてもやわしく気にかけてあげることです。仲よくなれるということなので、これからもっと友達をつくらうと思っています。やさしく声をかけようと思います。



【講評】

読書を通じて思ったことや学んだことをまとめました。心に残ったこの場面に対しての自分の考えを詳しく書いてみました。よりの感想文になりました。



## 小学校五学年の部

☆ 優秀作

「なぜ僕は働くのか」を読んで



鷺泊小学校 五年 黒川 結凪  
くろがわ ゆうな

大人になったら、だれでもみんな仕事をします。私は、しょう来シエフになりたいと思っていますが、主人公のハヤトは、何のために勉強するのか、どんな仕事につくのか、なやんだり迷ったりしています。私もたまにそう思うことがあります。

札幌へ行くと、利尻にはない仕事をする人がたくさんいて、あの仕事をやってみたいな、こんな仕事もあるんだな、と発見します。

この本には、やりたい仕事はまだなくても大じょうぶ、と書かれています。今は、学校と家のせまい世界しか知らないのですが、これから成長して、行動はんいが広がったり、自分の力でできることがふえたり、少しずつ世の中のことを知って、見えてくるものだと書かれています。それを読んで、ハヤトも私も安心しました。

でも、今何もしなくて良いというわけではありません。やりたい仕事につくために、学校で学ぶことを大切にして、社会に出るためのきそ体力と、選たくしを広げるための学歴や、むずかしい問題ができたという仕事はどんどん変わっていいと思います。

父と母も、大人になってからずっと同じ仕事を続けてきたわけではありません。色々な場所へ行って、色々なものを見て、経験

して、今の仕事を選んでいきます。休みが少なくても、おそくまで働いていても、仕事を楽しくしているように見えます。それはきっと、やりたいことを仕事にできているからだと思います。

一日の大半を過ごす仕事が自分の好きなものであれば、人生がとても楽しいものになります。くじけそうなことがあっても、好きな仕事であればがんばれると思います。やりがいを感じる仕事であれば、大人になっても勉強を続けていけると思います。

私は、自分の作った料理で、人を笑顔に、幸せにできたらと思っています。そのためには、行きたい学校をめざして、今やらなければいけない勉強をがんばります。これから、もしその夢が変わっても、この仕事ができよかったな、今日も一日幸せだったな、と思える仕事につきたいです。

### 【講評】

本の内容から、自分が考えたこと、本から得た大切なことをよく書けています。また、本を読んで学んだことから、自分の将来につなげていきたいと明確に示している点も良かったです。



★ 佳作

「この世界の片すみ」を読んで



鷺泊小学校 五年 工藤 佳音

四年生のころ、社会の授業で戦争について勉強をしました。テレビのニュースなどで聞いた事はあってもきちんと考えた事はなかったので、戦争のころの本を読むことにしました。

このお話は戦争のころの一人の女性がおそろしい体験をしたお話です。

浦野すすのお家は広島でのり屋をしていました。のりの配達中すすさんは人さらいにいます。すすはまだ妹にお土産のミルクキャラメルも買っていないのに殺されるのはいやと一緒にさらわれた男の子と逃げる事にしました。逃げる事に成功したすすと男の子はすすが十八才のころに結婚しました。

空しゅうがふえていく中、しゅうげんをあげたすすと周作さんは配給が少なくなり、食べる物がなくなっても仲良く暮らしていました。

この本を読んで今の私は少しせいたくな暮らしをしているなと思います。毎日おなかいっぱいご飯やお菓子などを食べることができ、戦つて飛行機がとんでいる事もないのでたくさん外で遊ぶ事もできます。

すすの時代では、くわには毎日、空しゅうけいほつが鳴っています。家がゆれ、外にでてみると大きな雲の様な物を見ました。それが広島に落とされた原ばくだんのです。すすは広島にいる家族がどうなったのか不安で仕方ありませんでした。

私はカミナリがきらいです。大きな音で「ゴゴゴ」って最近な

利尻で大雨で土砂災害が起きて、防災無線が鳴るだけでも、すごく怖かったです。だからこの先も戦争がおきないでほしいと思います。

八月十五日ラジオで終戦の報告が流れました。すすはまだまだ戦える、まだ負けていないと涙をたくさん流しました。

私はすすが大事な家族を亡くしたのに負けて終わるのが悔しかったのではないかなと思いました。

周作さんは戦争で亡くなる事なく、すすの待っているくわに戻ってきました。

私はこの本を読んで少し戦争の勉強ができて良かったです。終戦記念の八月十五日はこの先も忘れずに過していきたいです。



【講評】

四年生で学習したことをきっかけに興味をもつて本を鑑賞するようになり、戦争がもたらした悲しみや苦しみを改めて感じることができた。戦争のしるしを垣越えして伝えたいという思いが伝わった。

★ 佳作

「火垂るの墓」を読んで



利尻小学校 五年 井田 心優

このお話は、戦争と戦う兄妹の物語です。これを読んで私は戦争の大変さが強く心に残りました。

私の心に残った場面は、節子が虫の死骸のお墓を作っている場面です。節子が墓を作りながら下を向き、

「うち、小母ちゃんにきいてんお母ちゃんもう死にはって、お墓の中にいるねんて。」

と言いました。私はこの言葉が一番印象に残りました。その理由は節子のお母ちゃんが死んでお墓に埋まっているから、節子も虫と同じことをしてあげたのかなと思ったからです。小さい節子の優しくて親切な気持ちに心を打たれました。

また、この本を読んで心に残った登場人物は兄の清太と妹の節子です。この二人は、戦争で親が死んだけど二人でもあきらめずに生活していたのがすごいと思いました。昔は戦争がありびんぼうな家ばかりだったけど、今は戦争もなくて平和な時代なんだなと思いました。今の時代に生まれた私は、戦争がなくてよかったなと思います。

作者が言いたかったことは、「昔の時代の大変さを知らない人に知ってもらいたい。」ということだと思います。なぜなら、この世には、戦争や死のこわさを知らない人がたくさんいるなと思ったからです。

この本と今の自分の生活を比べると、昔はお手玉やけん玉とか遊ぶものだったけど、今はゲームなど昔には存在しなかったも

のが今はたくさんあります。そして戦争が起こると住める場所もなくなってしまいます。あたり前の事ができなかつたりして昔の人は大変だなと思いました。

私はこの本「火垂るの墓」を読む前は、戦争の大変さをよく知らなかったけど、読んだ後はくわしく知ることができました。今みたいに学校などもふつうに通える時代じゃなかったこと、今みたいになんでも買ってもらえなかったことなど、たくさん知ることができました。私はこの本を読んでよかったなと思いました。もう二度と戦争が起こってほしくないです。



【講評】

本の内容を深く読み解くことで、登場人物の性格や心情を深く知ることができています。登場人物から、戦争の大変さを知り、起こってほしくない願うことができました。

★ 奨励賞

「ふんつするたすく」を読んで



鴛泊小学校 五年 天内 颯斗

ぼくは将来の夢は、介ごし設のリハビリの先生になる事です。

母は介ごし設でリハビリに関わる仕事をしています。母の姿を見てかっこいいなと思ったのと、リハビリをしておじいちゃんとおばあちゃんの身体がよくなっていたり、元気をあたえる仕事だこ

思ったからです。母の職場の花火大会などの行事のお手伝いをしに、何度か行った事がありました。

その時に、身体が不自由なおじいちゃん、おばあちゃんが笑顔でとても楽しそうにしていたこと、働いている介こ員さんたちも同じように楽しそうにしていた事が、とても印象に残っています。なので、介この仕事についてとても興味があり、もっと知りたいと思っていたら母がすすめてくれたので、読むことにしました。

この物語は、たすくの元刑事だった祖父が認知しようになっ  
てしまい、入浴のためにデイサービスに通うことになるところから  
始まります。担任の早苗先生から夏休みの自由研究としてデイサ  
ービスの様子をレポートするようにたのまれて、友達の一平と行  
く事になります。デイサービスでの色々な経験や、外人ヘルパー  
のリニさん、通ってきているお年よりの出会い、そして祖父の  
介こを通して、何もわからなかった介こを学び、たすくが成長し  
ていく話です。この本を読んで印象に残った場面は、一番興味が  
あった介この仕事についてです。デイサービスは、車で送り迎え  
をして、入浴・食事・体操やレクリエーションを行うところだとい  
う事がわかりました。

一人では、むずかしい利用者さん達のお手伝いをしたり、食事も  
のみこむのが弱い方には、水分にとろみをつけたりする工夫、持  
病がある方には、おしよゆをひかえめにしたり、おいしく見え  
るように色どりを大切にしたり食事の事だけでも沢山の工夫があ  
りました。

認知しようになってしまった祖父がお風呂のお湯を止めるのを忘  
れて水びたしにしまい母が片付けをしている姿を見て、祖父  
が「迷惑かけた。すまなかった。」と心細く、「あやまりました。  
そんな祖父にたすくは「大丈夫だよ。おじいちゃん。」と声をか

け手をにぎりしめました。ぼくがもし祖父と同じ立場だったら、  
忘れてしまって迷惑をかける事が辛かったり、心細くて不安で苦  
しくなると思います。たすくの「大丈夫だよ。」という言葉に、祖  
父はとても心強かったし安心したと思います。

ぼくがもし将来、リハビリの先生になる事ができたら、色々な  
病気や不安な気持ちを持っているように、優しく明るくせつして  
安心して、お年寄りの方だけではなく家族や友達、困っている人  
達がいたら自分から声をかけてそばにいて安心してもらえる  
ような人になりたいです。

#### 【講評】

本を読むきっかけを丁寧に書いてとても良かったです。また、最後  
には本を読んだことを通し、自分の思いをより強くなったことがよく伝わ  
ってきました。



## 小学校六年生の部

☆ 優秀作

「犬たちをおくる日」を読んで



鷺泊小学校 六年 種谷 海璃  
たねや みり

動物愛護センターを知っていますか。

動物愛護センターは犬や猫などの動物を保護し、譲渡会で新しい飼い主を探したりするだけでなく、飼い主が見つからなかった動物を殺処分したりする場所です。

この本は、愛媛県の動物愛護センターにもちこまれて来る犬や猫などの命を救うために、毎日たくさんの方々が頑張って「命」の大切さを伝える実際にあった話です。

まず、印象的だった一言が、  
「ここに来た犬が殺されていやなあと君らが思うんやったら、ここに来る犬を減らすためにはどんなことをしたらええんか、考えてくれへんかのう。」

という一言です。この一言はセンターに勤める獣医師の渡邊清一さんが施設の見学に来た子ども達に言った一言です。

私はこの一言で自分にも問いかけられたように感じました。どんなことをしたら良いのか考えてみると、一人ひとりが命の大切さを知ることが必要だと思いました。私は猫を飼っていて、とてもかわいくて大切にしています。けれどただ「かわいい」だけでなく、どうしたら幸せになるかを考えることが大切だと考えました。私は子猫を見ると、かわいいので飼いたくなります。けれど、今飼っている猫が飼えなくなる可能性があるのです、新しい猫は飼

わないようにしています。

次に印象的だった場面は、譲渡会の事前講習会で飼い主になるための厳しい条件を伝える場面です。私はその条件を見たとき、とても厳しくておどろきました。条件が無い場合でも飼うことができますが、センターの職員がまた不幸になる動物をつくらないために、心から思っているのが伝わってきました。

条件は八個あり、家族全員が動物を飼う事に賛成か、終生飼えるかなど、幸せになるための条件がそろっています。最も重要な条件が、どれだけ自分の時間を費やせるかです。犬は散歩に行ったり、動物は餌が必要になるので、自分の時間を費やせない動物は幸せにならないと思います。

私はこの本を読んで、こんなにつらくて悲しい思いをして暮らす動物がたくさんいることに気付いたり、命の大切さについて改めて考えました。人間は事故があったりするとニュースや新聞で取り上げられますが、動物は誰も知らない所で殺処分されたりしている事に気付きました。誰にも気付かれずに死んでいくのはとても悲しいと思いました。

「捨てられた一頭を救うことより、捨てられる一頭を減らす」私はこの一文を読んで本当にその通りだと思いました。捨てられた一頭を救っても、捨てられる動物は後を絶ちません。みんなが現状を知り、少しでも殺処分が減ると良いなと思います。私の飼い猫は十四歳でこれから自分でできる事が少なくなります。最後まで責任を持ち幸せにしたいです。



【講評】

動物愛護センターの方の一言から、命の大切さについて感じたことや考えたことがよく伝わってきました。自分の経験をふり返ったり重ね合わせたりしながら、動物たちの命をどのように守っていったら良いかという強い思いが感じられる感想文でした。

★ 佳作

チーム



鷺泊小学校 六年 入井 綾花

なぜ、私はこの本を選んだかというと、今年、私はサッカー少年団のキャプテン、小学校では最高学年になったからです。

みなさんは人が困っている時すく手を差し伸べることができですか。応援してあげることができませんか。面倒くさい、よいなお世話とってしまうことはありませんか。

この本は主人公大地君が大切な物を失ってしまうかもしれない不安を卓球、家族、友人を通して助け合うという大切さを気づかせてくれる本です。

卓球クラブの部長大地君は最後の大会で、当たり前だと思っていたダブルスの相手が自分より年下であり上手ではない下級生と組むことになりました。納得いかない大地君。もちろん先生に抗議します。

先生は「純はただ一人の五年生。来年になったら下の子と組むしかない。大地と純にとっては成長できるチャンス。」と返答しまし

た。大地君はうれしい反面納得できない。

私は今サッカーでは六年生一人です。サッカーはチームプレーなので一人ではできません。例え納得いかなくてもやるしかないのです。私はこの時の大地君は自己中だと思いました。追いつきかけないように、女子部では内部分れつ、そして家庭でも事件が起きています。お父さんが会社をくびになってしまいました。本当にピンチなのに動じないお母さんの姿勢として「父さん、母さんはふたりで一つのチーム。父さんが大変な時は母さんが助ける。手を取り合ってチームは二人でがんばる。」という言葉。この言葉に大地君は、「チーム」という意味に気づいたのです。また自分がやったことのない家事をして相手の気持ちが変わるようになってきたのです。確かに大地君と純君は好きな者同士組んだわけじゃないけど大地君が純君を強くしてやるという気持ちになったのはチームメイトとして見ることができたからじゃないでしょうか。また大地君のパートナーが純君で本当に良かったと思います。純君は自分では役不足・迷惑をかけたくない気持ちがあるからこそ一人でもくもくと練習をし大地君の卓球シューズに穴があいているのも気づきました。自分のこづかいで買おうとしていたやさしさがある子です。そんなやさしさ、決して自分からは言わない強さを持っている純君に影響された大地君はどんどん、チームの意味を考えることができました。もちろん口には出さない大地君の同級生のやさしさも考えるきっかけになった一つです。自分の事だけ考えてはやってはいけなくなるのが小学校最高学年。そしてキャプテン。す



ばらしいチームになるにはどうしたらいいか。仲間の事を理解しなければならぬ。二人でもクラスでもチームでも協力し合えば成功する。例え失敗しても助け合う。何度でも立ちあがる。私はこの本を通して学びました。残りの少ない小学校生活、少年団活動をチーム一丸となって過ごしたいと思います。

#### 【講評】

スポーツを通し、家族や友だちと助け合うことの大切さについて、自分の経験を照らし合わせながら、様々な思いが綴られていました。「チーム」としてどうがんばるべきか、最高学年としてどうあるべきかをしっかり考え、自分の生活に生かそうという思いが伝わってくる感想文でした。

### ★ 奨励賞

#### 大人との対立

鷺泊小学校

六年

酒井

綾乃



「せつまでもな人生送れると思っとなよ」

この言葉が心に残りました。なぜなら、大人の指示に従わないだけで人生をわるく言われます。だけど自分の心に鍵をかけているのはよくないと思います。確かに目上の人間の指示に従うのも大切です。だけど、自分の心に従って行動するのが私はいいいと思います。

私が一番心に残った場面は、牡馬のイジメがSNSにさらされている所です。私はタブレットを使っているけれど、SNSは改めて怖いと思ったし、人を無責任な言葉で傷つけるのを何とも思っていないことに驚きました。

この本で、大事ななと思った所は六日目に牡馬がイジメを受けていたこと・博人の裏アカが見つかり炎上したこと・香織が父の会社のために議員の娘である綾に近づいたことがSNS上にアップされたからです。守が綾に告白した時、すごいと思いました。私だったら恥ずかしいし、皆がバラバラになっているからどうにもならないと思ったけれど、守は自分の気持ちにうそをつかずに言ってくれました。

綾のお父さんが私のお母さんとは違うなと思いました。大人の人たちは、「大人の力」を持っていて私たちにはできないことだってできます。だけど大人の力で自分が国会議員の後継者になるためだけに使うものではなく、大人なら娘や、人のことを考えて大人の力を悪用しないで使ってほしいと思いました。

私がこの本で自分に似ているなと思った人は守です。守は歴史好きで、私も歴史が好きなのと、七日間立てこもる前は恥ずかしがり屋だったからです。だけど守は立てこもっている間に、皆に本用の自分を知ってほしいと思えていたのが成長していいなと思いました。

最後に筆者が言いたかったことは、

「結果じゃなくてチャレンジすること」

だと思いました。グループチャットの玉すだれさんは、昔の七日間戦争を経験した時は、七日間立てこもり、勝ちました。この時、玉すだれさんはチャレンジしたと思います。その結果玉すだれさんは大人に勝ちました。守は今回告白にチャレンジして、結果はだめだったけど後悔はしていません。だから私も失敗してもいいので、何事にもこれからチャレンジしようと思ったし、この守・綾・香織・紗希・博人・牡馬の六人はこれを通して、うわべのつきあいじゃなく、本当の友達になれたと思います。だから私もあ

と四年間友達と仲良くして、最高の思い出を作りたいと思いました。



【講評】

感想文の書き出しに、心に残った言葉が書いてありインパクトがありました。本の中でおくる出来事に対し、自分だったらどうするかということや、素直な思いがたくさん書かれており、チャレンジすることの大切さや友だちの関わり方について考えたことが、よく伝わってくる感想文でした。

★ 奨励賞

「青いスタートライン」を読んで

利尻小学校 六年 河越 姫花



わたしは、「青いスタートライン」という本を読みました。お話の内容は、二十五メートルしか泳げなかった颯太がたくさん練習して一キロメートルも泳ぐ大会に出るお話です。

わたしが、一番心に残った場面は颯太が一キロメートル泳ぎきった場面です。特に心に残った言葉は、

「ゴールまで五十メートルあと少しだー」

です。なぜなら、一キロメートル泳げなかった颯太があと、五十メートルのところまで来たからです。私は二十メートル泳ぐことができませんが、一キロメートル泳げるようになるまで何か月も練

習しなくてはいけないと思います。颯太はたくさん努力したんだなと思いました。

そして、心に残った登場人物は颯太と夏生くんです。夏生くんは泳げない颯太に泳ぎ方を教えてくれた人です。夏生くんは泳ぐコツをわかるように教えてくれました。

私は、自分の周りの人たちと比べて、できないことをとちゅうでやめてしまうことがあります。でも友達や先生がもつとついたらいいよ。とアドバイスしてくれるのでやろうという気持ちになります。夏生くんのようなアドバイスがあるとやる気がわいてくると思いました。

この本を読んで、作者が言いたかったこと、とても大切なことは、できないことでも、最後まであきらめずにやる。だと思います。

なぜなら、泳げなかった颯太があきらめずに練習したら泳げるようになったからです。

私も、あきらめずに練習したらできるものになったことがあります。その時はとてもうれしかったです。鉄棒でできなかった技ができるようになったのです。

これから、できないことでも最後まであきらめずにやるつもりです。

【講評】

ひげなごうじも、最後まであきらめずにやるのが大切だと思います。自分の生活の中にも生かしていきましょう。思いがけず伝わって来ました。また自分の経験を照らしてわかるかなら書きたいです。本の内容を深く理解できるようになりたいです。





## 中学校の部

### ☆ 優秀作

#### 「青い鳥」を読んで



鬼脇中学校 二年 牧野 海結

#### 『吃音』

あなたはこの言葉を聞いた時、どのような事を思い浮かべましたか？  
そしてこの言葉の意味を深く知った時、あなたはこう考えますか？

『吃音』とは話し言葉が滑らかに出来ない発達障害のひとつ。「いせんのじもいせぬ」。

吃音は音のへりかえし、引き伸ばし、言葉を出せずに間があいてしまうという三つの特徴を定義としている。私がこの言葉をはじめに目にした時、どのような意味をさぐらうかという重いか想像がつかなかった。しかし、意味や特徴と深く知った今、私も吃音だったり。

吃音の方に出会ったり。どんな行動をするのかよく考えるようになった。『青い鳥』は、村内先生という吃音持ちの先生が少しの間、色々な学校に行きついでペンチヒッターとして色々な事を教えるお話です。

しかし、村内先生は吃音なので大切な事以外はあまり話しません。そして彼が主に関わるのは自分の想いをうまく伝えることができなかつたり、周りに合わせるのが苦手な生徒ばかりです。関わった生徒は少しずつ大切なことに気付かされていくお話です。

もし私が吃音だったら人と関わらずに生きていくことを選ぶと思います。私は自分の思うようにいかないことがあると、投げ出してしまっていることがあります。なので上手く話せない自分が嫌になり、周りからあまり良い目で見られない自分も嫌になる。この無限ループになってしまっている

思います。普段から周りの目を気にしてしまいがちなので尚更、心も体もやられてしまつと思えます。吃音でもしっかりと生徒と向き合っている村内先生はとても素敵な人だと思いました。

逆にも私か吃音の方と出会った時は周りの人がどれだけ離れていても私はその子といる事を選びます。私は吃音になったことがないのでその子の気持ちを100%理解することはできないかもしれませんが、でも同じ人間な事には変わりありません。吃音持ちで会話が続かなくても私がその子と居たいと思いつける限り、一緒にいます。なので誰よりもその子をわかってあげて、その子にとって何でも話せる特別な存在になれるように努力したいと強く思いました。「障害」と聞いただけでざわざわしてしまう今の時代。私のような決断をするのには覚悟がいるのかもありません。私もこの本を読むまでは「障害」という言葉に少し偏見がありました。ですが、村内先生がこの言葉で私の考えは変わりました。「本気で言ったことは、本気で聞かないとダメなんだ。」

どれだけ吃音持ちでも障害持ちでも、その子は本気で話している。私たちと同じ風に話そうと頑張つて話している。頑張つて話しているのは私達も一緒だ。なぜ今まで偏見をもっていたのだろう。私の偏見が全て無くなった瞬間でした。なので「吃音」という障害の子でも一緒に居たいと思えました。

この本を読んで吃音についてもっと知りたい、そして一人でも多くの人を理解してほしい、そう強く思つようになりました。そして、『吃音』ということだけで普通の人と差別をしない世の中になってほしいと思いました。

この先、生きていく上で様々な人に出会つと思えます。一人一人として向き合つて村内先生のような素敵な人になれるようにがんばりたいです。



【講評】

自分が心の中で本当に書きたいことを文章にするのは、本当に難しいことです。「防音」という発音障害という、自分の気持ちと真摯に向き合い、海結さんがわかからぬよう行動していきたいのか非常に読みやすく書かれています。読書感想文で表現した自分の思いをもっと「せひ」村内先生」のようになれるように頑張ってください。

★ 優秀作

人とのつながり



鷺沼中学校 二年 高橋 暖

みなさんは、普段から思ったことを口に出せていますか。この本の主人公・茜は、周りに迷惑をかけたくないという思いから、先生にも、友達にも、家族にも、本当の自分の気持ちと言えず本心を隠していました。

私はこの本を読んでいるとき、とても心がいたみました。不満があってもみんなに嫌われたくない思いで何も言わず、自分のことで周りに迷惑をかけないように本心を絶対に言わない茜。私は読んでいる間、もどかしい気持ちでいっぱいでした。どうして嫌なことを押し付けられても何も言わず笑っていられるのだろう。少しくらい不満を言ったって、友達は離れていかないよ。そんな気持ちでいっぱいでした。

でも、世界には色々な人がいて、一人一人の考え方はとてもバラバラで様々なんだと思います。人どう思われるか、たくさん考える人。人どう思われようと自分の好きなことを書く人。この本に出てくる少年・青磁は茜とは正反対な後者の方でした。

私はどちらかというと茜のようで、周りの話を聞いて、自分からは意見を出したり主張することは苦手なタイプです。だから青磁のようについて、自分の好きな絵を描いて、好きなときに好きなことをする自由さが、と

てもうらやましく思えました。

ですが、茜には茜の、青磁には青磁の、性格は違えど、どちらにもずっと抱えていた悩みがあったのです。つまり、自分にはないものを持っている人から刺激を受けたり、その人の考えを自分は理解できなくても、同じ様に悩みを抱えているというよりは、同じ様にお互い解決に導いてあげることができるといえます。この本を通して人とのつながりや考えの見方について深く考えることができました。

最後に「マスク」についてです。茜は本心を隠すのと同時にマスクをして顔を隠していました。筆者によると、「この本を書きまっかけは」マスク依存症」を知ったことだと書いてありました。マスクをしていると表情がわかりにくい分、何だか安心感があったり、周りから自分が守られているような気がします。



それと同時に自分の本心を相手に見せなくなった、下を向いて歩くことが多くなることもあるのです。今、マスクをつけている人がほとんどだと思います。みなさんはマスクをつけることでどんなことを考えますか。私はマスクをしているからこそ、よりの人との関係を意識し、残りの学校生活を過ごすしていきたいです。

【講評】

読書体験を通じて、自身の生活を見つめ直して、心と心が良くなる文章でした。四六時中マスクを付けて人と接するのは、昨日、私たちの本当の気持ちにはマスクのアイ「押しもたせられなくなってしまいました。だからこそ、自分が思っていることを、自分から積極的に周囲に発信して、人との信頼性が高まるといっていいのだと思います。改めて感じられた感想文でした。

★ 佳作

ミライの授業

鬼脇中学校 二年 東海林 凱



みなさんは、何のために勉強をしていますか。良い進学先を見つけるため、そして、良い会社に就職するためですか。ぼくは、何のために勉強しているのか今まで分かりませんでした。

学校へ行く度に、「こんな大人になったら使わないのに何でやっているんだろう」と、勉強に前向きにはなかなかなりませんでした。

ですがこの本を読んで変わりました。この本では、勉強のある言葉にたとえています。それは魔法です。昔の人からすると飛行機はもちろん車が走るなど想像もできなかったはずですが、「学校は、未来と希望の工場である。」という作者の言葉を聞き、ぼくは、今までの考え方が間違っていたことに気づきました。「ミライの授業」という本は、これから未来を背負っていく僕たち十四歳に向けて、授業をしてくれる本です。

「ミライの授業」では、世界を変えたアイザック・ニュートンや、男女平等を定着させた、ベアテ・シロタ・ゴードンなどの色々な偉人たちの話を用いて、世界を変えるために何が必要なのかを伝えていきます。僕はこの本を通して私たちの存在が未来を変えるためにどれほど重要なのかを、考えさせられました。

僕がこの本の話の中で最も印象的に残っている話は、フランシス・ベーコンの四つの思い込みです。権威の思い込み、別名劇場のイデオロギとも言われています。これは、先生などの偉い人が言っているから信じようと鵜呑みにしてしまうことです。僕も、テレビで見た健康法などを疑いもせずに「ハエーそうなんだ」と鵜呑みにしてしまっています。これが、典型的な劇場のイデオロギなのだと思いました。

このことを知ってからは、本当にこれは合っているのかと疑問を抱き調べるようになりました。なので僕は人の話を鵜呑みするのではなく、まずは疑い自分で調べ解決することがすごく大切だということが分かりました。

当時中学一年生だったビル・ゲイツは、仮説を立て起業することを考えていました。そして今となっては世界でも有名な実業家です。

最初にこの話を読んだとき、驚きました。中学生で起業を考えるほど見通しがあり、POCのハードではなくソフトウェアという空白地帯に着目し今後重要になるのはソフトだ。」と仮説を立て、大成功しました。僕もこれを見習いビル・ゲイツほど大きくはないけれど将来の仕事や進路に仮説を立て自分だけの仮説を証明しようと思います。

僕はまだ十四歳で、大人が慣れてしまってもう気づかない違和感を感じ取ることができません。例えば、改まった場でスーツなどの、正装をするのはなぜなのか。たとえ小さなことでも大発見につながる可能性があることを知りました。なのでこれからは色々な事に疑いを向け少しでも未来に貢献できるように自分の未来を作っていきたいと思っています。

【講評】

「自分は何のために勉強をしているのか。」という学生なら誰もか考えたことのある課題について、自分なりの答えをわかりやすく書いてみました。ビル・ゲイツの素晴らしい実績を参考に、「自分だけの仮説を証明しよう」という言葉から、凱くんが非常に壮大な物語が始まるのではないかとすくすくワクワクしました。これから自分がか気づけない視点を大事にして、新しい未来を創ってほしいですね。



★ 佳作

カヲフル

鬼脇中学校 二年 富岡 小華



もう二度と生まれ変わることができなかった魂に、再挑戦のチャンスが与えられたとしたら何をやるのだろうか。

この物語は自殺、いじめ、家庭問題、恋愛など今の中学生が経験しているであろう問題を取り上げている作品だ。

私はこの物語を読んでも、「生きたらどうしようかわからない」「生き方」について考えさせられた。

物語の主人公である「ぼく」は、前世で大きな過ちを犯し、普通なら消えてしまふ魂のうちのひとつだった。プラプラと名乗る天使が「抽選に当たりました」といって、「ぼく」は服毒自殺をした中学二年生の少年「小林真」として、前世の記憶を取り戻すまで、彼の身体でホームステイを行う。つまり「再挑戦」をするということだ。

私が考えさせられた「生きたらどうや」「生き方」については、物語中の数々の言葉だ。「優しくしたいのに、誰かをすくい傷つけない」「優しくいたい言葉があった。私もイヤな思いをしているときに」「みんなに優しく接して欲しい。だけど自分をイヤな思いにさせた人をすくい傷つけない」といって感情をまわっていた。そのとき、「当時の私と同じだ」と思った。自分だけじゃなかったと思った瞬間だった。そしてもう一回。

「この世があまりにもカヲフルだから、ぼくはもう一回も迷ってはいない。ぼくはほとんどの色だからわかるかなんか。ぼくは自分の色だからわかるかなんか。ぼくはぼくの言葉があった。最初見たときはぼくの意味がわからなかったけど、ぼくはぼくを見てみたら、人は色んなものをまわらせている。」「場所」があたり、ぼくは「場所」もあり、「徳」もない。「牛」はない。「牛」もない。

そのような正反対の感情をあわせもっているからこそ、人は自分らしくいれるのではないかと思った。そして私は、人は一色で染まらなくなっていくと思った。

「角度次第ではどんな色だって見えてくる」たしかにそうだ。どんなことに躓いたって、少しでも見る角度を変えてみたら、新しい先が見えるかもしれない。人は質よりの量だ。いつでも完璧でいようとしなくていい、人それぞれのたくさんの感情を持っているからこそ一人一人の魅力があると思う。

このようにしてから、自分も他人も、みんなが「カヲフル」だということがわかる。つまり、一人一人がこの世の中をカヲフルに染めているということだ。

私はこれから先も、ずっとずっと、この世の中をカヲフルに染めている人の「ひとり」として生きていきたいと思った。

【講評】

自分が短所だと思っていたことが、周りから見たら実は長所にもなり得る、ということが多々あります。人生の再挑戦というファンタジーの世界の話でしたが、物語中の言葉を自分自身に当てはめると「牛」の後の人生の中にも、良いこと悪いこと様々な「カヲフル」な出来事が起きているように、自身の色が輝くように生活を送ってほしいと思います。



★ 佳作

宇宙でいちばんあかるい屋根



鷺沼中学校 二年 吉田 汐音

「なんでもかんでも、ひとさまのせいにするんじゃないよ」

この言葉は主人公つばめが私の思うもう一人の主人公星ばあに初めてあった時言われた言葉です。私はこの言葉を見た(読んだ)時に少しドキリとしました。私が物をなくしたらいつも、母が入ってきて物の配置をかえたからだ。といって母に責任をおしつけてきました。だから、そんな自分にもあてはまるのではないのかと。誰にも言われることのなかった事実、初めて触れられたような気がしました。これがこの本を読んだ最初に影響をうけた星ばあ言葉でした。

「ひとだまされるのははからなくて腹もだが、自分をだますことはくらだつておもしろい。」

という、ちよつとひねくれた星ばあに、「そわつて、ひ、信じてつていいかなあ。」と星ばあ言葉の的確にほん訳したつばめ。

私はこの会話からつばめが星ばあのことを知って仲よくなったという、変化を感じとれました。本の中の情景を読んで想像するだけしか自分にはできない。けど時の流れや変化を読みとって少しでもつばめと星ばあのがわかって嬉しい気持ちになりました。自分を信じる自分のだますに言い換えた星ばあ素面じゃない所にクスリと笑った場面でした。

この本の主人公つばめは私と同じ十四歳です。つばめは私とちよつぴり似ています。困ったら他人に責任をおしつける所とかがとくに似ています。そんなつばめは星ばあと出会って少しずつ変わっていきま

何がかわったか具体的には言えません。けれど彼女の心に日がさして、彼女の心の片隅にいつも星ばあがいるという事は確かです。人との出会いは人を変え、そしてまた人を変えていくことを、学ぶことができません。

一つだけこの本でお世話になった星ばあ言葉で悲しくなったものがありました。

「過ぎたことですがったり悲嘆にくれんのは年寄りじゃない。がきのすることだよ。」

という言葉です。つばめが落ち込んでいた時に星ばあかけた言葉です。まるで年寄りの自分は間に合わない、と言っているようで、読んでいて悲しくなりました。もし私がおその場にいたら、「さすがの年寄りも、悲嘆にくれるのも誰だって一度はしたくなる。それをお年寄りがしてもいい。大切なのはその後どう行動するのか。だからそんな悲しいことを言わないで」と言ってしまうでしょう。本人にとって悲しくなかったとしても、私にとっては悲しくて切ない言葉だったからです。



この本は読んだ人の世界観を変えます。大げさに言っているように見えるかもしれませんが本当のことです。あなたが感じ取る世界と、それに対する考えに刺激や彩りを求めるのなら、ぜひ読んでみて下さい。

【講評】

表現の仕方に、キラキラと光るものを感じる文章でした。特に、最後の段落で読者に対してこの本の魅力を訴えかける場面では、その力が存分に発揮されていたと思います。その豊かな感性を武器に、あなたらしい視点からこれからも読書を楽しんでほしいです。

## ★ 奨励賞

### カラフル

鬼脇中学校 一年 牧野 泰夏



あなたは過去をやり直したいと思ったことはありませんか？そして過去に大きな過ちを犯してしまったら、過去の自分を許すことはできますか？

僕は、過去にやり直したいと思ったことは何度もあります。例えば、自分が失敗をし、みんなに迷惑がかかったときなどです。僕が小学五年生の時の文化祭の器楽で僕だけ覚えるのが少しおそかった時などです。その時僕はみんなより覚えるのが少しおそくみんなにおいつけてませんでした。このとき、たくさん練習してみんなにしっかりとおいっかなきやと思いました。この気持ちの反面ついていけないというくやしき気持ちもありました。この体験からみんなに迷惑がかかってしまうと、申しわけなく感じるので自分を責めてしまうことがあります。そのたびに僕は、やり直したいなと強く思います。そして僕がもし過去に大きな過ちを犯してしまつたなら、過去の自分を許すことは絶対に出来ないと思います。僕は今まで大きな過ちを犯したことは無いので分かりませんが、もし仮に犯してしまつたとしたら、過去にやり直したいと感じた時のように自分をここん責めてしまうでしょう。そして最悪の決断をしてしまつことがあるかも知れません。なので許せないと思います。ですがこの本を読んでから深く考えるようになり、考え方も変わったような気がします。

「カラフル」では小林真という男の子が自殺にはじつてしまっています。そこに死んだはずの主人公のぼく、過ちを犯したぼくが小林真の変わりに生きるという抽選に当たります。ですが移りかわった後に知ることにな

る「小林真の自殺の理由」や「ステイ先の家族」によってぼくの心が動いていくお話です。

僕はこの本を読んで「生きる」ということを改めて考えました。この本にはこんな言葉が出てきます。

「人は自分でも気づかないところで、だれかを救ったり苦しめたっている。この世があまりにもカラフルだから、ぼくらはいつも迷っている。どれがほんとの色だかわからなくて」

この言葉を見た時、とても共感しました。人は自分がやっていて気づかなくても救っている、それと反対に苦しめたり傷つけたりしてしまっている。でもそれはこの世界がたくさんの色で溢れていてカラフルだから。僕には人と関わることでそれぞれの色が集まり、カラフルな世界になっているので。そう思いました。ではなぜ「生きる」ということを考えさせられたのか。それはこの世界がカラフルだからです。僕にある色は、他の人にはないのかもしれない。逆に僕にない色は他の人にあるのかもしれない。辛い、苦しい死にたいと思えば最悪の決断をしてしまう暗い色が多い人もいれば、僕のように迷惑かもしれないけど頑張ろう、やってみようという明るい色が多い人もいる。色は人それぞれだから暗い色を多く持っている人を支えて明るい色にして、明るい色の人が増えて欲しい、僕はそう思います。

これからは僕は暗い色を持つのではなく、明るい色をたくさん持ち、周りを支えて明るい色を増やせるような人になりたいです。



【講評】

「過去に思い直した」としてのことは誰よりも一度は考えたことですね。自分の思い直したことが具体的に書かれていたことで、共感しながら読むことができた。秦雪くんと『カミソリ』という本の内容に共感して「生きる」「死」について新たな疑問を考えたことがあつたのではないかと感じた。ぜひ、いっしょに読んでみることをおすすめします。

★ 奨励賞

「カミソリ」の涙

鷺沼中学校 三年 佐藤 桜



「神様、病気がどうして私を選んだの?」これは十五歳の少女亜也が言った言葉です。病名も、病気の治し方もわからない難病になってしまった亜也と、亜也のお母さん・家族の愛の実話です。亜也は、自分の病気の重さを知り、車椅子の生活を送っていく中で日記を書き続けることが生きる支えでした。十四歳で自分の病気の存在を知ってから二十歳まで書き続けた日記の数は四十六冊に及びます。

私の本を読み感じたことの1つは、伝えたいけど伝えられない、もどかしさです。亜也は病気が進行するにつれて、言葉が出しづらかったり、手の動きが鈍くなっていきます。つまりそれは、人に頼らなくては生きていけなくなっているということです。亜也の生活を手伝ってほしいとおぼあちゃん、「亜也は、一言」

「ア・リ・ガ・ト」

と言います。本当は、もっともっとうたぐいすの言葉で、嬉しい気持ちを伝えたい亜也。この場面では私は、亜也が、おぼあちゃんや家

族に感謝しているのかということがより伝わる場面だと思いました。そして私は、亜也「「き」って亜也の『あしがと』の気持ちは、おぼあちゃんにも、亜也さんを支えてくれる人に、しっかり届いていると思いますよ」と伝えたいと思いました。

そして私の本を読み感じた1つ目の事は、亜也と亜也のお母さんの愛です。この本は実話なので、亜也のお母さんの思いも、あつがきで載せられています。亜也の病気は、治す方法がまだ見つからないにもかかわらず、亜也のお母さんが、必死になって、担当医に相談したり、病院を変えて、いくらお金がかかっても、亜也の病気を治したい、亜也に生きていてもらいたいという思いが、ものすごく伝わりました。また、この本を読んで



亜也が最期まで、生きようと必死になれたのは、亜也のお母さんの存在があったからだと思います。

最後は、私も、神様がなぜ亜也を病気に選んだのかを考えてみました。もちろん私は神様ではないので、わかりませんが、聞くこともできません。でも、亜也は病気になって、たくさんの事を考え、感じることができたと思います。特に家族・お母さんとの関わりを通して、亜也は、下向きから、自分のため、家族のため「生きよう」と向きになります。そして最期の亜也は、家族・大切な人に、見守られ、永い眠りについたと思います。なので、亜也は病気で、たくさんの事を失われましたが、失われなかったことは、家族との関わりと愛だと感じることができました。私は、どれだけ苦しいことがあつたとしても、人と関わることで、心がいやされたり、強くなることをこの本を通して知ることができ、この本に感謝しています。

【講評】

神様は理不尽です。時に何の罪もない人に、残酷な試練を与えることがあります。この感想文からは、そんな試練が与えられた著者の気持ちに寄り添いながら書いたことが伝わってきました。苦しみながらも強い気持ちで向き合っていた著者の気持ちを胸に、これからの人生をたくましく生き抜いてほしいです。

★ 奨励賞

星の王子様

鷺沼中学校 一年 小神 天寧



「秘密を教えてあげる。大切なことは目に見えない。心で探さなくては。」

キネネは、小さな王子さまにそう言いました。小さな王子さまがあのバラに費やした時間は、決して目には見えないけれど、弱いバラを守るためのもとても大切なものでした。

このように、この本には心に刺さる言葉がたくさんあります。当たりの前のようなことだけれど、よく考えてみれば深い意味があったり、普段はあまり考えないであろうことまで教えてくれます。

例えば、王子さまと鉄道員の会話。初めて見た行ったり来たりする列車に疑問を抱きながら、王子さまは鉄道員にこう言います。

「みんな、自分のいたところ満足できなかつたの？」  
「あ、鉄道員は」

「人は、自分のいるところについて満足できな。」

と答えます。みなさんはこの二人の会話をきいてどう思いましたか？ 私は、こう思いました。

新型コロナウイルスの影響で、学校にも行けず、友達にも会えない巣

ごもり状態の時、私は今までにないくらい早く学校に行きたくなりました。早くみんなと遊びたかったし新しい環境の生活を楽しみたかったです。でもこの学校が始まるより毎日嫌いな勉強と慣れない部活に疲れ、めんどつくさくなってしまいました。そして結局自分は学校が好きなのか嫌いなかわからなくなりました。あの鉄道員の言葉のように自分のいるところについて満足できなくなります。著者のサン＝テグジュペリとは赤の他人なのに、まるで心を読まれたように不思議でした。

私はこの一冊を読み終えて、一日一日を大切にしようと思いました。過去を思い出してみれば多少の後悔はあっても楽しかったことがたくさんあります。昨日に戻りたい、早く明日になってほしい、そんなことはよくありますが、結局今が一番幸せなんだと思います。

王子さまやたくさん星の住人たちが大切なことをもう一度教えてくれます。宝石のようなこの物語をぜひ読んでみてください。

【講評】

「星の王子さま」が、いつもはあだのまに感じていたところを見つめ直すきっかけになる本だと感じることがよく伝わっていました。今自分がある環境の素晴らしさ、日々1日1日の大切さは、目には見えないので人はすぐ見失ってしまいますが、この本やこの感想文を通して、たくさんの人に見つけてほしいです。





『審査を終えて』

第三十四回読書感想文コンクール審査委員長

鬼脇中学校 野呂田 大輔

スマホを手を取れば、無料でおもしろい動画をいくらでも見ることができ、無料で楽しいゲームがいくらでもできるようになった今の世の中。「本を読みなさい」と言っても、なかなか手に取ってもらえないのは難しいですよね。

そこで、読書のメリットをいかに伝えるかについておぼたいたと思います。

①自分のタイピングで始めて、自分のタイピングで終わる

テレビやYouTubeなどを見るより、画面からしばらく離れることができませんが、読書ならそれに縛られることがありません。持ち運びも簡単です。

②想像力がきたえられる

読書では、文字から登場人物の声や表情を想像します。頭の中で自分だけの世界を創造したり、行ったことのない場所に行ってみたりする楽しさは、映画やドラマでは味わえません。そして、読書できたえられた想像力は、国語の時

間をはじめさまざまな場面に役立つんですよ。

そして最大のメリットは、「読書は怒られにくい趣味である」ということです。ゲームばかりしていると怒られ、スマホばかりいじっていると怒られ…そんな経験をしたことはありませんか。読書だとどうでしょう。もしかしたら「ほどほどにしろときなよー」くらいのことと言われるかもしれませんが、怒られたという話はほとんど聞いたことがありません。ゲーム機やスマホは学校に持って行けません。本なら大丈夫。

学校に堂々と持っていける趣味として、読書をはじめてみてはいかがでしょうか。



【第三十四回 読書感想文応募校と応募数】

■小学校一学年の部

鷺小 五点  
利小 一点

■小学校五学年の部

鷺小 十四点  
利小 六点

■小学校二学年の部

鷺小 五点  
利小 一点

■小学校六学年の部

鷺小 十三点  
利小 五点

■小学校三学年の部

鷺小 十四点  
利小 八点

■中学校の部

鷺中 四十八点  
鬼中 十二点

■小学校四学年の部

鷺小 十点  
利小 三点

小学校計：	八十五点
中学校計：	六十点
合計：	百四十五点

【審査の先生】

鷺泊小学校・・・・・・・・目谷美紀先生  
利尻小学校・・・・・・・・大熊友寛先生  
鷺泊中学校・・・・・・・・齋藤雄司先生  
鬼脇中学校・・・・・・・・野呂田大輔先生

●令和二年度

第三十四回読書感想文コンクールを終えて

読書感想文コンクールに、応募していただいた小中の児童・生徒の皆さん、ご協力ありがとうございました。  
また、各学校の校長先生はじめ諸先生方には、作品の取りまとめ、審査等、お忙しい中ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。今後とも何かとご指導、ご協力の程、よろしくお願ひ申しあげます。

全世界において大変な時代となつてしまいました。何かと不便の多い今日ですが、この状況が一日も早く解消され、平穏な日々を取り戻せるよう心から願っております。

令和二年十二月発行

利尻富士町教育委員会 鬼脇公民館業務係



ラストページまで駆け抜けて

2020 第74回 読書週間標語